

企画者 : 長野県松本市・松本市松原地区町会連合会

評価点 : 松原地区の中央公園と東・南・北にある各公園にかおり植物を植樹し面的につなぐことで、地区全体のコミュニティガーデン化と、癒しの地域空間づくりを進め、花とかおりを通じた快適なかおり風景づくりを進めている。

かおりと花いっぱいのコミュニティガーデンづくり

■企画の目的

松本市松原地区に立地するショッピングモールからつながる中央公園と東・南・北にある各公園をかおり植物で面的に繋ぐことで、地区全体のコミュニティガーデン化及び癒しの地域空間づくりを行う。花とかおりを通じた快適なかおり風景（アロマスケープ）づくりを進めるための企画。

■様々な活動

松原地区では、地区町会連合会が中心となって中央公園をはじめショッピングモール時計台周辺や町内公民館前で、毎年花壇づくりを実施している。今年は、それに併せて公園内に金木犀等のかおり植物を植栽するなど、花とかおりの街づくりを積極的に進めている。また、松本市のオープンガーデンに参加し、住民が丹精こめて育てている庭を公開している家庭や、その他にも自宅の前に花を植えている家庭も数多く、花やかおりへの関心は非常に高い地域とも言える。

【街づくりコンセプト】

毎年、中央公園ほか4箇所の公園の花壇づくりを住民主体で行っている。コミュニケーションをベースに100年体系の地区街づくりに向け福祉住環境の整備をお進めしており、今企画はその一環として実施。

【かおりのコンセプト】

自邸の庭をガーデニングづくりや松本市で実施するオープンガーデン事業などに協力する住民も多く、かおりを面的に繋ぎ、地区全体としてかおり風景づくりを進める。



○中央公園
花植え状況

○中央公園
花壇状況

○オープンガーデン
参加者宅

*樹木配置箇所 :

松原中央公園



使用樹木 : キンモクセイ 35本、ギンモクセイ 35本

松原南公園



使用樹木 : キンモクセイ 35本、ギンモクセイ 35本

松原北公園



使用樹木 : キンモクセイ 25本、ギンモクセイ 25本

松原東公園



使用樹木 : キンモクセイ 30本、ギンモクセイ 30本



- 企画者 : 茨城県つくば市・つくばエクスプレス沿線葛城/遠東地区まちづくり協議会
 評価点 : つくばエクスプレスの開業(H17.8)により沿線でのまちづくり事業の一環として、地区公園を整備し、地区公園から東側に広がる、葛城調整池、蓮沼川調整池、蓮沼川の周辺一帯は自然環境を生かした親水レクリエーションゾーンとして整備している。また、当地区の住民団体と連携して住民参加型の開発を進めている。

TX 研究学園・葛城、 千本桜まちづくり事業

■企画の目的

地区公園から東側に広がる、葛城調整池、蓮沼川調整池、蓮沼川の周辺一帯に「千本桜まちづくり事業」を「葛城・遠東地区まちづくり協議会」が線的、面的にかおり環境を演出しようとするもので、当地区に住む人々、働く人々、訪れる人々に潤いと心の安らぎを与える空間の創出と「つくばスタイル」に相応しい景観づくりに資するもの。

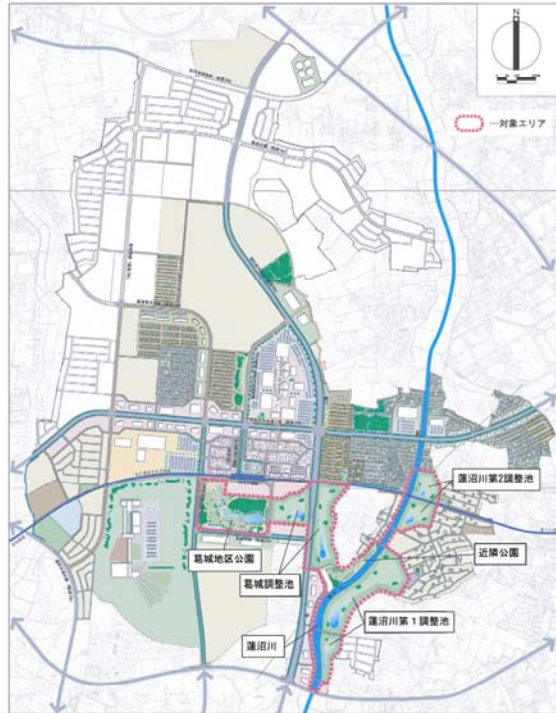
現状



成木時のイメージ



■現地位置図（平成20年市街化予想図）



■使用する樹木

- ・ソメイヨシノ (500本) ・河津桜 (250本)
- ・シダレザクラ (250本) ・アジサイ (500株)

■本事業の効果

かおり環境の創出は、住む人々、働く人々、訪れる人々に潤いと心の安らぎを与え、つくば市域の新しいまちづくりに大きな役割を果たし、首都圏域に住む多くの人に住居の候補地として選んでもらえると期待されている。また、かおり環境となる植樹場所からは、つくば市の自然環境を代表する「筑波山」の眺望はすばらしく、桜の花が満開となる2月～4月には、つくば市内はもとより首都圏域からも多くの人々が訪れるものと思われる。

本事業は当地区の地権者組織である「葛城・遠東地区まちづくり協議会」が行うが、植栽樹木は関係地権者を始め、当地区住民や当地区に進出している企業等に広く呼びかけ、本事業への賛同者から寄付を募る計画。植樹作業や維持管理についても、地権者をはじめ趣旨に賛同する多くの市民や企業等の参加・協力により進めていく予定。このことは新しいまちのコミュニティ形成につながり、TXつくばのまちづくり大きな役割を担ってくれるものと期待される。なお、葛城・遠東地区まちづくり協議会では、本事業を末永く継続していくため、新たな組織化（NPO等）を目指している。

■かおりの樹木配置平面図



企画者 : 兵庫県芦屋市
 評価点 : 阪神大震災(H7)により倒壊した芦屋中央地区の区画整理により整備し災害時の住民の避難地の役割をもち、ビオトープを配置した当公園は普段から広く地域住民に利用されているが、さらに地域住民に親しまれる公園としての魅力アップを目指している。

公園魅力アップ計画 ～大樹公園～

■企画の目的

地域住民に親しまれる公園の魅力アップを図る。

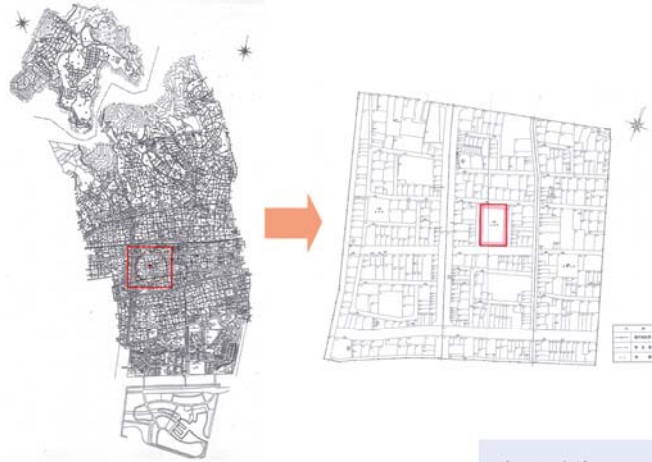
【街づくりのコンセプト】

大樹公園は、平成7年に発生した阪神大震災により街の8割の建物が倒壊した芦屋中央地区の区画整理により整備された公園である。当該地区には元々公園はなく、災害時の住民の避難地としてはもとより、ビオトープを配置した当公園は普段から広く地域住民に利用されている。

【街づくりのコンセプト】

2月頃からのロウバイの開花を皮切りに4月末頃まで花の香りを楽しむことが出来る。

■箇所図

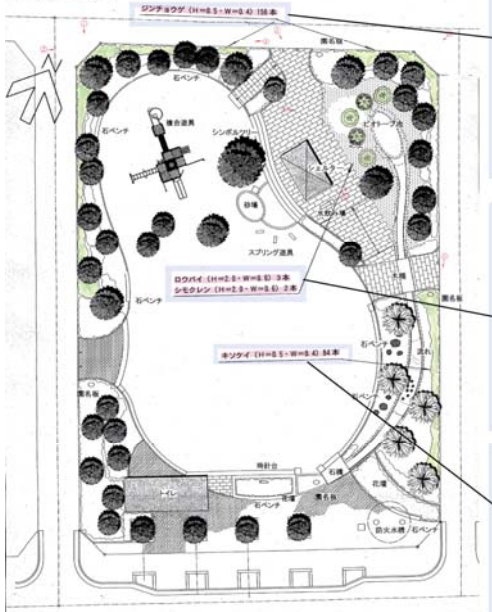


■現状写真



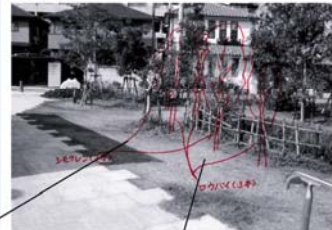
当該公園のある地区は、平成7年の阪神大震災で8割の家屋が倒壊し、大きな被害を受けた。そのため、市は区画整理事業により宅地や道路・公園等の整備を行い、平成15年に完了した。当初、当該地区には公園はなく、新たに出来たこの公園は地域住民のための災害時の一時避難所としてだけでなく、子供の遊び場に、また大人の憩いの場としても今日まで親しまれてきた。さらに、そこに香りの樹木を植えることで、公園の魅力をより増すことだろう。

■完成予想図



■完成イメージ1

ジンショウゲ



シモクレン



ロウバイ



■完成イメージ2

キソケイ



■企画の効果

- 街作りへの効果
花の咲く木は人の視覚・嗅覚を満足させ、「やさしい街づくり」に貢献する。
- 香り環境への効果
「香りの公園」は季節を感じることが出来る効果がある。
- 住民への効果
住宅に囲まれた公園のため、公園としての機能だけでなく、地域住民の庭の延長として親しまれる。
- その他
当公園は遊具もあればビオトープもあり、幼児からお年寄りまで幅広い年齢層の利用がある。さらに香りの樹木を植えることにより、より魅力のある公園になる。